

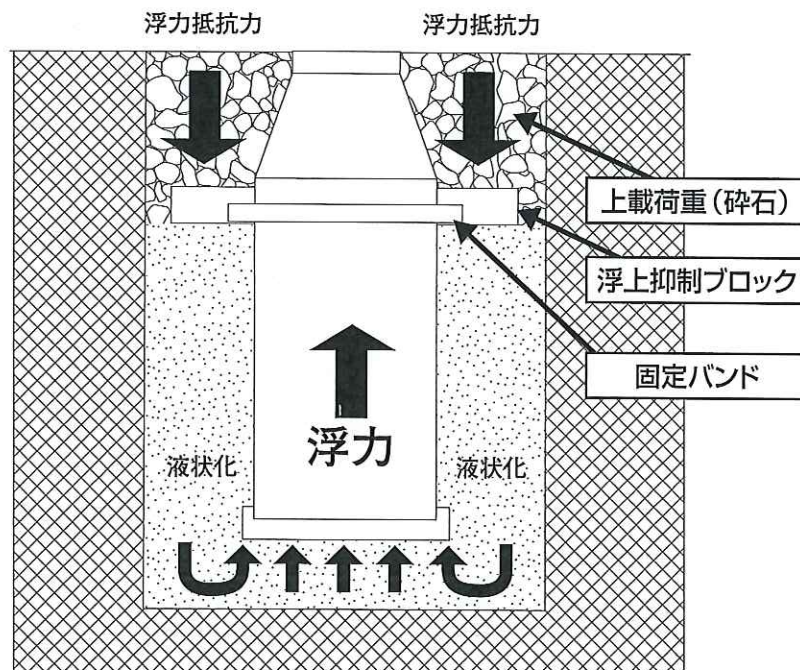
簡単な施工で耐震力を強化する マンホール浮上抑制工法

ハットリング工法[®]

PAT

ハットリング工法は、標準深さ1.0mの位置に浮上抑制ブロックを設置し、ブロックの自重とブロック上面の埋め戻し土(砕石)の重量を利用して、マンホールの浮き上りを抑制する工法です。

マンホール本体に影響を与えることなく簡単かつ低コストで施工が行えます。



特長

既設・新設どちらでも設置可能です。

浮き上がりによる影響の大きい市街地の既設マンホールはもちろんのこと、新設マンホールにも設置可能です。
(組立式マンホールで0号から3号までと、現場打ちマンホール(JIS型)に適用)

マンホールに影響を与えません。

マンホールに穴をあけたり、内空断面を阻害することはありません。
浮き上がりそうになった時にだけ抑制する構造になっているので、常時には負荷はかかりません。

地震時による慣性力の増大はありません。

マンホール本体と浮上抑制ブロックとの間に隙間を与えているので、地震時には別々の挙動を示し、慣性力の増大には繋がりません。

簡単施工、しかも低コスト。

施工は組立式マンホール1号で標準ブロックのみ設置の場合、2m×2m 深さ1m の掘削で、地下埋設物の試験掘り程度の規模で行えますので、特殊な施工技術は不要です。

ハットリング



標準ブロック



標準ブロックS



補助ブロック



標準ブロックS + 補助ブロック



固定バンド設置

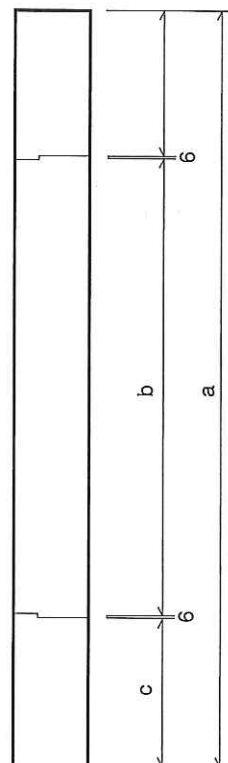
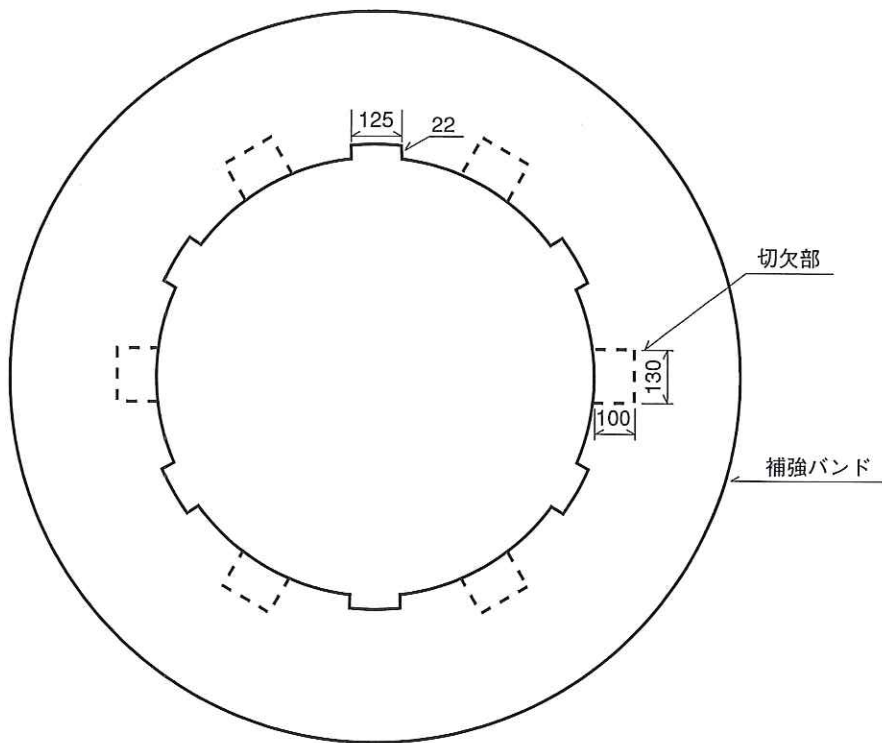


標準ブロック設置

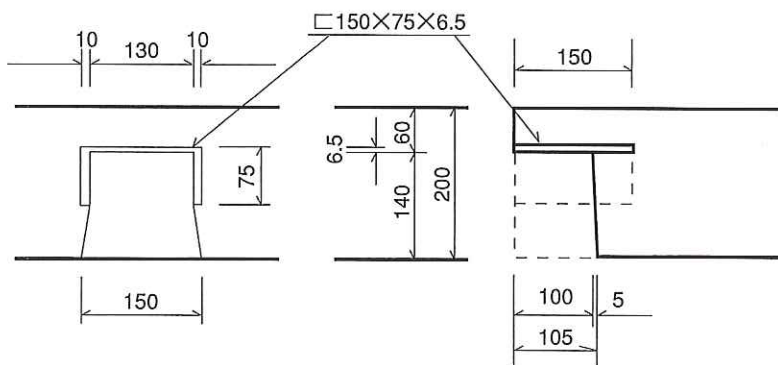
ハットリング

単位：mm

■標準ブロック



切欠部詳細図

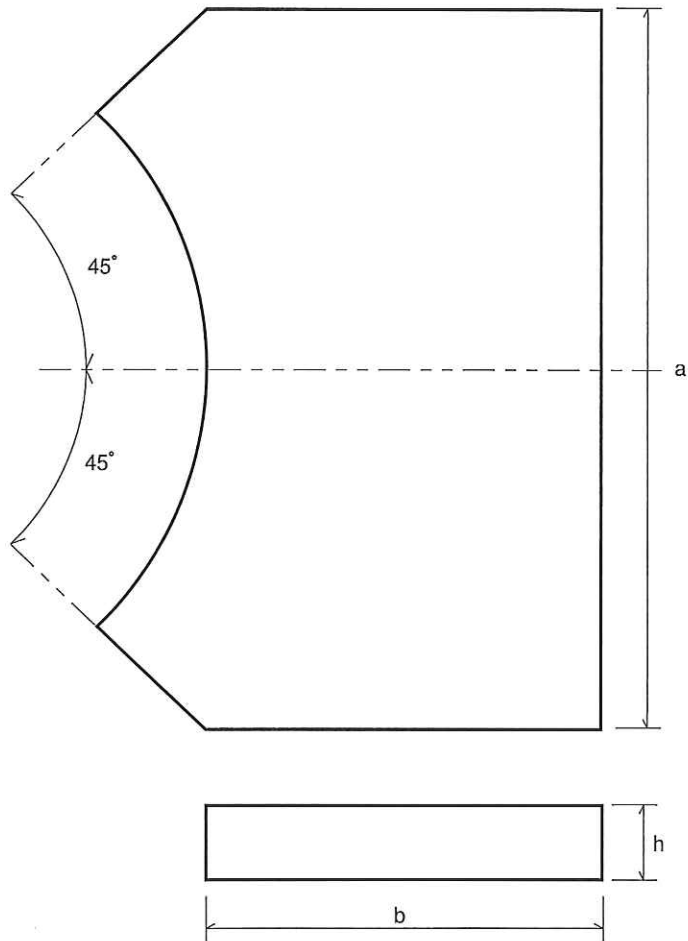


呼び	a	b	c	補強バンド
HR-0	1600	1000	294	—
HR-1	1900	1150	369	—
HR-1S	1900	1150	369	4.5
HR-2	2300	1490	399	—
HR-2S	2300	1490	399	6
HR-3	2300	1830	229	—
HR-3S	2300	1830	229	9

ハットリング

単位：mm

■補助ブロック



呼び	a	b	h
EB19-1	1900	1000	200
EB19-2	1900	1500	200
EB23-1	2300	1000	200
EB23-2	2300	1500	200